

ワンヘルスと感染症

【ワンヘルス（ONE HEALTH）とは？】

“One Health” 直訳すれば「一つの健康」

「人・動物・環境は相互に密着な関係があり、人の健康を守るためには動物や環境に目を配って取り組む必要があります。」

※ 医師・獣医師間の知識・問題意識の共有、意見交換の促進、共同意識の醸成 !!

公益社団法人福岡県獣医師会
副会長 野原隆士
(福岡県議会議員)

ワンヘルスの歴史

年	項目
2013年	日本医師会と日本獣医師会が学術協定を締結
2015年	第1回ワンヘルス国際会議 スペイン（マドリッド） 講演 日本医師会 横倉義武会長 日本獣医師会 藏内勇夫会長 ※アフリカでは「エボラ出血熱」が流行していた。
2016年	第2回ワンヘルス国際会議 日本（北九州） ※「 福岡宣言 」 G7伊勢志摩ビジョン（ワンヘルスアプローチの国際協力強化等）
2018年	アジア3カ国学術協定
2019年	東アジア3カ国獣医師会サミット 横浜市
2021年	第1回ワンヘルス国際フォーラム 福岡市
2022年	第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会 福岡市（11月）

【ワンヘルスの項目】

ワンヘルスは、次の6項目からなっています。

- ① 人と人動物の共通感染症対策
- ② 薬剤耐性菌対策
- ③ 環境保護
- ④ 人と動物との共生社会づくり
- ⑤ 健康づくり
- ⑥ 環境と人と動物のより良き関係づくり

【感染症とは？】

病原体（病気を起こす小さな生物）が体に侵入して、症状が出る病気のことをいい、病原体は大きさや構造によって、細菌、ウイルス、真菌、寄生虫などに分類され、病原体が体に侵入しても、症状が現れる場合と現れない場合とがあります。

感染症となるかどうかは、病原体の感染力と体の抵抗力とのバランスで決まります。

【動物由来感染症（人畜共通感染症）とは？】

「動物由来感染症」とは、動物から人間へうつる感染症をあらわす言葉であり、「人獣共通感染症」といった言葉もあります。

人への感染症については医学が対応、動物の感染症については獣医学が対応
動物から人へ伝播する動物由来感染症は、医学と獣医学が協力して対応

動物由来感染症 WHO（世界保健機関） 現在、**200種類以上**

ペスト、新型コロナウイルス感染症、牛海綿状脳症（BSE）、エボラ出血熱、鳥インフルエンザ、ウエストナイル熱、狂犬病、ラッサ熱 等 をはじめ人と動物の共通感染症が多数あります。

感染を阻止するためには、**1.感染源、2.感染経路、3.宿主** の3つに対するそれぞれの対策が必要であることから、人、動物、環境それぞれのアプローチによって人や動物の感染を防ぐことが喫緊の課題となっています。

【国連の警鐘】

近年、動物由来感染症が増加傾向にあり、**野生動物の保護と環境保全のための対策を講じなければ、動物由来感染症も増え続けること**になります。

特に、近年の新興感染症では**動物からの由来**が増えています。

世界では、動物由来感染症により**年間200～270万人の命が奪われています。**

過去20年間、動物由来感染症により約10兆7千億円の経済損失。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による経済損失は、

アジア開発銀行予測 約600兆～940兆円の経済損失

国際通貨基金（IMF）25年までに約2900兆円の経済損失

【感染症の歴史】

14世紀	ペスト	ネズミに取りつくノミ
16世紀	天然痘	インカ帝国滅亡
19世紀	結核	
20世紀		
	スペイン風邪	世界で約4000万人死亡 (日本約39万人)
	アジア風邪	香港風邪
	SARS（重症急性呼吸器症候群）	コウモリ
	MARS（呼吸器症候群）	ラクダ
	エボラ出血熱	鳥インフルエンザ 等

【薬剤耐性（AMR）問題】

現在、抗菌性薬剤に効果が見られなくなった薬剤耐性菌は、増加の一途をたどっており、薬剤耐性菌や薬剤耐性性マラリアなどの治療は大変困難であるとともに、国境を越えて増加しています。

この問題は、私たち人類による抗菌性薬剤を過剰に使用するなどの過去の人間活動が今日の問題と結びついています。

すぐにでも行動が必要な世界規模的な課題となっており、WHO（世界保健機構）は2015年に世界中で、薬剤耐性菌対策に取り組む決議を採択してきました。

国連総会やG7サミット（先進国首脳会議）でも、薬剤耐性菌対策の重要性を訴えています。

【環境保護】

近年のグローバル化や大量の食糧生産は、人間や動物にとって貴重な森林の過剰伐採をはじめ生態系を破壊し、気候変動の一因となっています。

地球の温暖化は熱中症のリスクを高めるだけでなく、豪雨や台風、山火事といった様々な災害の原因となり、人だけでなく動植物にも大きな災いをもたらしています。

このように**環境と人と動物の健康は密接に繋がっています。**

また、森林の中に生息していたウイルスなどの病原体は、森林伐採や急速な都市化により、人間社会に侵入し、新たな感染症を急速に世界中に拡散させることとなります。

その一つの例が新型コロナウイルス感染症です。

このように**環境を守ることは、感染症を防ぐという効果もあります。**

重要な教訓は、

「ジャングルの奥地に密かに生息している微生物を、人間社会にもってきてはいけないことです。」

自然環境は、人間も含め多様な生物が生きる場です。良い環境と生物の棲み分け型も足りれていてこそ、人や動物の健康が維持されます。